

別紙3

令和5年度

学校関係者評価書(最終)

国分寺市立第六小学校

校長名 氏原 玲子

令和6年2月 作成

教育目標： ◎仲良く助け合う子 ◎よく考える子 ◎体をきたえる子 めざす学校像： ・子供たちが主体的に学び、豊かにかかわりあう学校 ・教職員が協働し、組織の総合力で教育活動を推進する学校 ・保護者、地域から信頼される学校 めざす児童像： ・自分も人も大切にし、互いに理解し協力して、豊かに生きる子 ・すすんで学び、深く考え、自分の良さを伸ばす子 ・健康で安全な生活をおくり、粘り強くやり抜く子 めざす教師像： ・自ら学ぶ教師 ・教育への情熱と子どもへの愛情あふれる教師 ・子ども・保護者・地域に信頼される教師
---

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標	努力指標	成果指標	成果指標	今後の課題	学校関係者評価記入欄
				(中間)	(最終)	(中間)	(最終)		
学力の向上	・基礎的・基本的な力を確実に身に付けさせ、確かな学力(知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力)を育成する。	・基礎的・基本的な内容を確実に定着させる。 ・言語活動の充実を図り、主体的・対話的で深い学びを実現する。 ・児童の情報活用能力や問題解決力・表現力を育成する。	・学習規律の徹底を図るとともに、めあて、まとめ、振り返りの明示を行い、「分かった」「できた」を実感できる授業を行う。	4	4	3	4	・最終評価で成果指標が向上した。これを来年度も継続させることと、今よりもさらに確かな学力の向上を目指した目標設定と取組を進めていく。 ・授業改善プランにそって学力の向上を図る。	・成果指標が上がったことは評価できる。 ・「分かった」「できる」の実感は重要なので継続することが大切である。つまづきや失敗もたくさんしながら学ばせたい。 ・勉強が苦手な児童が少しでも好きになるように工夫してほしい。 ・教員同士で授業を見合う取組は重要なので継続してほしい。
			・児童が自分の考えを持ち、それを友達と共有することができ、話し合いやグループ活動の場面で意図的に取り入れた授業を行う。	4	4	3	3	・言語活動の充実につながる環境づくりを全学級で進める。 ・互いを認め合い、考えを深める話し合い活動の習慣化を図る。 ・主体的・対話的な学びの場を支援する視点の授業改善に力を入れる。	・学校公開の授業を見て、友達の意見を認め合い、積極的に発言する良い雰囲気を感じた。 ・伝える方法を身に付ける事と発言しやすい雰囲気づくりの両方から取り組んでいくことが重要。 ・相手の意見の良さ、違う意見の良さを伝えていくことで、発言できる児童が育成できると思う。相手の意見を聞くことも必要である。 ・グループ活動の活用を充実させてほしい。
			・児童が学校図書館やタブレット型パソコン等を活用し、必要とする情報を見つけ、活用しながら学習を進める場面を取り入れた授業を行う。	1	2	2	3	・情報部を中心にICTの具体的な活動方法について研修の充実を図る。 ・開発したICT活用教材の共有を行う。 ・ICTの活用と同時に、ICTリテラシーについて指導を適宜行う。 ・情報活用、問題解決、表現の力を育成する指導を系統的に行う。	・遊びの要素を取り入れることも大切である。 ・教員による活用の差があるので、学校全体で統一した指導を。 ・児童がICT機器に興味をもてるような実践をお願いしたい。 ・教師がプロジェクターを使って授業を進めるような活用も良い。 ・教員間の活用事例の共有を進め、推進していくことが重要。 ・ネットリテラシー等の早期の定着も重要である。
豊かな人間性の育成	・規範意識や正しい言動、お互いの人権と人を思いやる心や態度を育てる。	・自分を見つめ相手を認め、互いに尊重し合う意識を育成する。 ・基本的な生活習慣の定着を図る。	・ふれあい月間の取組やいじめ防止授業を行うとともに、日頃から児童とコミュニケーションを重視して指導を行うことで、いじめの早期発見・未然防止に努める。	4	4	3	3	・今後も継続していじめ防止の取組について保護者・地域へ情報発信を行う。 ・問題行動や児童とのトラブルについて学年間を通じて共有し、問題解決に努めると同時に、報告・連絡・相談の徹底を図る。	・取組の継続が、最終的に保護者の理解につながるので取組の継続を。 ・いじめの早期発見、未然防止、早期対応をお願いします。 ・しっかりと取り組んでいると思う。いじめは目に見えづらいので、引き続き努力をお願いしたい。 ・小さな問題がいじめに発展しないような日頃の指導を。
			・日頃の生活指導や、あいさつ運動、道徳の授業を通して、相手を思いやる言葉遣いや、気持ちの良い挨拶ができるような態度を育てる。	4	4	4	4	・今後も継続して取り組む。 ・子供同士の会話の中で暴言にあたる表現が聞かれることもある。場に応じた言葉の使い方と共に相手を思いやる気持ちをさらに育てていく。	・成果指標が中間、最終ともに高く、取組の結果が出ている。 ・家ではゲーム等の個の遊びが多い。学校での指導に期待したい。 ・相手を思いやる指導を引き続きお願いしたい。 ・難しいが、上からの指導ではなく、子供たち自身の中からそうした気持ちが生まれていくといい。 ・何気ない一言でも相手は傷つくという事を指導していってほしい。
体力の向上	・運動に向かう姿勢や基礎的な体力を育み、心身共に健康な子どもを育てる。	・体育の授業改善及び運動に親しむ環境づくりを推進する。	・運動時間30分以上確保した体育授業を実施する。また、休み時間の外遊びの促進や、各種体育旬間を実施することで、日常的な運動習慣を育てる。	3	3	3	3	・体力テストの分析を行い、児童の課題の把握と改善をする。 ・体育授業での運動時間の確保を継続する。 ・今年度、担当分掌が明確でない活動があったので、各種体育の担当分掌の見直しと明確化を行う。	・家の中で過ごすなど運動不足が気になる。体育や休み時間に集団で体を動かす取組があると良い。 ・運動の二極化は小学生から始まるので、適切に指導してほしい。 ・休み時間は個々の使い方がるので授業の内容を充実していくのが望ましい。 ・外遊びは体力だけの問題ではない。子供たちが体を使って遊べるのと良い。 ・他校では、校庭が狭く外遊びの曜日が決まっているところもあるので、自由に遊べるのは良い。 ・冬は外遊びも停滞すると思う。外に出ないといけない楽しいところがあると良い。
家庭・地域との連携	地域に学び貢献する子を育成する。学校・家庭・地域が一体となった開かれた学校をつくる。	・地域の方や諸施設との交流を活発化し、地域に学び貢献する子を育成する。 ・学校での児童の様子や学校の取り組みを、家庭や地域へ発信することで、開かれた学校づくりを行う。	・地域の方との関わりや諸施設の活用、地域の特色を生かした農園活動を通して、地域と児童がつながる機会をつくる。	3	3	3	3	・農園学習を中心とした地域と連携した学習活動の実施率が、学年によって差がある。来年度は国分寺学を推進する中で新たな教材を開発し、子供たちが六年間を通して地域と関わり合いながら学習する機会をつくる。	・地域と連携することで、児童が安心、安全に過ごせると思う。 ・農園活動は仕事の仕組みや土や草、虫と触れる機会を増やすのに使ってもらいたい。また、食育等多くの学びがある。高学年にも時間をつくり、学ばせてあげたい。 ・農園が近い六小ならではの活動であり、継続してほしい。 ・農園学習は、とても大切な活動であり、地域の方と接することができ、食への感謝も学べる。
			・学校だより、学級だより、ブログやホームページを活用し、学校からの情報を発信する。	3	3	4	4	・年度当初のブログ掲載方法の周知の徹底。 ・学校行事等全体の活動について情報発信を行う担当者が明確になっていないことがある。今後、学校だよりと同様に担当者を明確にして確実に発信されるように改善する。	・ブログを通して学校での様子が分かるので、引き続きアップしてほしい。 ・昨年度から成果指標が改善しており、積極的に情報発信を行ってきた結果だと思われる。 ・学校での活動を発信することは、保護者のみならず、地域理解につながるのでできるだけ多く更新してほしい。